



科学や最先端の取り組みについて語り合った本県初開催の「理研よこはまサイエンスカフェ」

AIで健康寿命延伸

弘大で理研サイエンスカフェ

三木氏が取り組み紹介

弘前市の弘前大学健康未来イノベーションセンターで11日、本県で初めてとなる「理研よこはまサイエンスカフェ」が開かれた。最先端AI研究の現状や健康寿命延伸への取り組みを専門家たちと、高校生や市民約100人が語り合った。

国立研究開発法人理化学研究所が主催、弘前市、弘前大学COI

研究推進機構が共催した。「ビッグデータで健康の未来を予測する——寿命から健康の本質を考えよう——」をテーマに、本県で初めて開催した。

新薬開発の経歴を持つ理研医科学イノベーションの三木一郎マネージャーが、AIを取り入れて病気を予測する最先端の研究や取り組みなどを紹介。弘前大学COIの村下公一教授が、参加者の意見や捉え方を聞きながら、「短命県」脱出のための健康寿命延伸に向けた弘前大学COIの取り組みを解説した。

参加した弘前高校3年の佐藤康平さん(18)は「地元で日本を代表する研究や世界にも通用する取り組みを聞くことができ、興味が沸いた。とてもいい刺激になった」と話した。

(成田真由美)